

電子地域通貨「たねPay」が進化しています。西之表市に住民登録をしている市民全員にカードを発行（16歳以上）し、令和8年2月末時点で利用者総数は8105人。アプリ登録者が5478人。総利用額はプレミアム付き電子商品券を含め、2億4200万円に達しています。

利用が加速したのは、年末の「プレミアム商品券」（プレミアム率40%）でした。それまで2割強だった利用率が1か月で40%に倍増。2026年1月に生活者支援事業として一人1万円分のポイントを給付した後は、7割近くにまで伸びています。16歳未満の市民の分は世帯主などにまとめて給付します。

2025年1月に事業を開始し、カード保有者は令和7年12月1日現在、1万2290人。カードを再発行した人は1800人を超えました。利用できる加盟店は、当初139店舗でしたが、170店舗に増加。事業者から「売り上げが増えた」との声もあります。

有効期限が気になるといいますが、最後の利用月から2年間。未使用期間が2年になる前に利用すれば事実上、期限はないも同じです。

市議会では一般質問で「高齢者には使いにくい」「市民の理解が不十分」などの意見が出ました。スマホが苦手なお年寄りには孫など若者に手ほどき役をしていただき、世代間のコミュニケーションづくりを期待します。また、市民から「使い方は意外に簡単だった」「物価高の中、助かった」という声もありました。

新年度からクレジットカードとの連携が始まれば、いつでもチャージが可能になります。体育館など公施設料金の決済など、さまざまな給付での活用を準備中です。さらにプレミアム商品券発行も計画しており、地域経済活性化の武器として進化を続けます。

